



今月の題字
高野通宏さん

(みどり市地域おこし協力隊)
暮らしを彩る複合施設「ハジマル」で
ビアバー(毎週水曜日夜)を営業中。
地域おこしの活動も積極的に展開中!!
足利屋から徒歩85歩の近さです。

虹の架橋

検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

コノドント館第111回企画展
市制施行20周年『みどり史』

2月21日〜4月12日

平成18年(2006年)3月27日に「新田郡笠懸町」「山田郡大間々町」「勢多郡東村」の2町1村が合併して誕生したみどり市は今年20年の節目を迎えます。平成の大合併では、1999年に全国で3232あった市町村が2010年には1727市町村まで減少しました。みどり市は、群馬県内で12番目に誕生した市であり、郡の所属が異なる自治体の合併は全国でも珍しい例と言われています。みどり市に合併後も各地域の歴史を尊び、地理的特徴を活かしながら今後も発展していくよう皆で頑張りたいと思います。



小耳にはさんだ
いい話
(文責・菊)
《367》

兵庫県たつの市の木南一志さんの講述録『論語と掃除II』を読みました。論語は、二千五百年前の中国の思想家・孔子と高弟の言行を孔子の死後に弟子たちが記録した書物で二千年以上語り継がれています。この講述録は、論語普及会の活学研究会で木南さんが講演した内容をまとめたもので、興味深い内容でした。この講述録の最初に「巧言令色鮮し仁」という論語の言葉が紹介されています。巧言令色鮮し仁とは、「こと

今回の企画展では、合併前の各地域の歴史や文化を紹介し、これまでの様々なあゆみを紹介しています。自然が豊かで歴史が感じられる大間々町は、江戸時代から銅(あかがね)街道の宿場町として栄え、商店街には岡直三郎商店や近藤酒造などの醸造業の老舗があり、旧大間々銀行の建物を博物館にしたコノドント館や白壁の土蔵を改装して宿泊施設やカフェに生まれ変わった「蔵人新宇(くらにあらう)」などの建物が新たな観光スポットとして注目されています。また、大間々は「芝居小屋のある街」として、高津戸峡谷を見下ろす景勝地に『ながめ余興場』があり、地域文化の発信基地としての役割を果たしています。

みどり市では、市制施行20周年の節目に、笠懸町の温泉施設『みどモスパ』が開業し、旧サンレイク草木が滞在型宿泊施設に生まれ変わります。全国的に有名な富良野美術館や日本の考古学の歴史を塗り替えた岩宿博物館も改装しています。『岩宿の発見』の相澤忠洋さんをモデルにした映画『赤土に眠る』も20周年の節目に公開され、『未来に誇れるみどり市』を目指して発展していくことを願っています。

論語と掃除II

さらに言葉を飾り、顔色をよくする者は、仁の心が乏しいものだ」という意味。木南さんは「きれいごとを言わず黙って一つのゴミを拾う。一億の人がそんな行動を起せば一億のゴミが消えます。そして次の日、その人がゴミを捨てるとかという捨った人は二度とゴミを捨てません。そんな世の中に変えていく。それがこの「巧言令色鮮し仁」だというふうには読んでみると論語の捉え方が変わってくると思います」と言っています。

性、相近きなり 習、相遠きなり
という論語の言葉も紹介されています。

世界一小さな
定利屋
トイレ美術館

今月の絵《367》

大野勝彦さん『倅せは…』



義手の詩画家・大野勝彦さんが発行している『やまびこだより』第121号が届きました。その中で「私の一大事は四十五歳の両手切断の場面。トラクターのゴミを取るのに『エンジン止めようか、サツと取ればいいか』の二択。私はサツと取るうを選んで両手を失う人生になりました。だが八十歳を越えた今、『あれでよかった』と思っています。あのお陰で皆さんとの出逢いがあったのです」と書いていました。大野さんは、毎日ワクワクした気持ちで過ごしているそうです。『倅せは気づいた時から始まる』の言葉が心に響いてきました。

ました。「この言葉は、人の生まれつきはだいたい同じようなものだが、習慣や学習により大きな違いになってくる」という意味です。木南さんは「生まれた時はみんな一緒なのに、掃除をする人たちはその習慣が身につく。世の中を良くしていく。自分の中で良い習慣を作りながら少しずつ内角が膨らんで大きくなる。これが年をとって丸くなるという本来の姿なのです。あっちこちにつっかり、角が取れて小さく丸くなるのではなく、自分が包み込む力を持つていくというところが、世の中を穏やかに変

えていくきつかけを与えてくれます」と説明していただきました。
去年の一月二日に亡くなられた鍵山秀三郎さん(イェローハット創業者・日本を美しくする会相談役)は私たちに与えてくれた師であり、心の支えでした。
鍵山さんは、掃除の効用として①謙虚な人になれる ②気づく人になれる ③感動の心を育む ④感謝の心が芽生える ⑤心を磨くと言っていました。論語も掃除も人間性を高め、社会をよくするという共通点があると思えました。

靖ちゃん日記

令和8年2月13日(金)

夜明けの時刻が少しずつ早くなり、水道が凍らなくなった。今朝の大間々駅トイレ掃除は142回目。参加者は12人。我々高齢者より四十代以下のメンバーのほうが多くなった。吉本興業の群馬県住みます芸人で、みどり市観光大使の富所哲平くんが仲間に加わって以来、若い人たちがたくさん参加してくるようになった。画家の武蔵厚子さんは高崎から50分もかけて何度か参加し、群馬のご当地アイドルグループ「あかぎ団」の元メンバー「さほめる」と小菅沙穂さんも2度目の参加。明日がハレンタインデーで、武蔵さんとさほめるからチョコをもらい、オジサンたちが大喜びした。さほめるの一粒チョコはアイドルらしい彼女の写真のパッケージ。食べちゃいたいほど可愛いもったいなくて食べられなかった。チョコはネットで注文できると聞き、ホワイトデー用にやっちゃんイラストチョコを注文した。でも食べても「ナメラ丸ちやう」かも。

大間々町上神梅に「角地蔵」と呼ばれる大きなお地蔵様が御堂の中に安置されています。江戸時代から銅街道深沢宿の守り神でもあった角地蔵は顔の部分が未完成で四角い石のままの少し変わったお地蔵様です。地元の人たちは、縁日の二十四日に参拝者への湯茶の接待を続けてきましたが、近年は高齢化が進み、世話役のNさんも先日他界されてしまいました。角地蔵の由来や深沢宿の歴史を詳しく教えてくださり、虹の架橋の愛読者でもあったNさんのご冥福を心からお祈りいたします。